

平成 30 年 3 月 26 日

平成 29 年度科学研究費補助金学内奨励金研究成果報告書

武庫川女子大学
武庫川女子大学短期大学部
学長 糸魚川 直祐 様

所属・職 建築学科・講師
氏 名 猪股圭佑 印

(予算科目： 219_03 特[研]奨励猪股)

平成 29 年度に採択された科学研究費補助金学内奨励金研究について、次の成果を得ましたので報告いたします。

記

- 1 研究課題名 [ギリシア、オシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成]
- 2 平成 30 年度 科研費に応募した研究種目名称 [若手研究]
- 3 研究成果概要 (800字以上)

「オシオス・ルカス修道院聖堂におけるキリスト教絵画による空間構成 - ルカスの墓と絵画との関係に着目して-」(日本建築学会大会学術講演梗概集F-2, pp.879-880, 2017)では、オシオス・ルカス修道院聖堂におけるルカスの墓の配置について検討し、その空間構成の特徴をルカスの墓と絵画に着目して考察した。ギリシアの中期ビザンティン聖堂建築として著名なオシオス・ルカス修道院聖堂は、ギリシア・アテネから北西に約150kmのイリコン山の斜面に位置し、10世紀後半から11世紀前半にかけて建てられたとされている。聖堂はパナギア聖堂とカトリコン(主聖堂)が接続した複合体である。パナギア聖堂の絵画はほとんど現存しないが、カトリコンにはモザイク画とフレスコ画が描かれ、地下のクリプタにもフレスコ画が描かれている。ルカスの墓(遺体)はカトリコンとパナギア聖堂の接合部分に安置されており、ルカスの墓(石棺)はその下部、クリプタの北腕に現存する。墓(石棺)は地下のクリプタの南出入口から入って正面にあり存在感を示すものの、主階のカトリコンあるいはパナギア聖堂においてルカスの墓(遺体)はそれぞれの西出入口から入ってすぐにわかる位置にはなく、二聖堂に挟まれた隙間のような場所にある。しかし、絵画の配置によってルカスの墓が空間全体と関係づけられていると考えられる。聖バルバラ聖堂とエウクティリオンの二つの聖堂が離れて建っていた10世紀後半には、ルカスの墓を中心として二聖堂の空間が構成されていたが、11世紀前半にかけてパナギア聖堂とカトリコンが建設され、建築的にはルカスの墓がある空間は二聖堂に従属する空間に変化したと考えられる。しかし二聖堂間の東西軸線に沿ってルカスの墓とそれに関係する絵画が配置されることにより、ナルデクスから北西礼拝室を経てルカスの墓へ至る連続する空間が意味づけられ、その墓の持つ重要性を示していることを明らかにした。また本研究課題にも関連する査読付論文「コア修道院聖堂におけるパレクレシオンの空間構成-墓室と絵画との関係に着目して-」(日本建築学会計画系論文集, 第82巻, 第738号, pp.2151-2161, 2017.8)を執筆した。

- 4 公開した研究成果 (学術論文・口頭発表等) 有 ・ 無

※「有」の場合は、論文抜刷、口頭発表要旨等を添付してください。

(注1) 本紙に様式6号を添付のうえ所属長に回覧後、提出してください。
 (注2) 平成29年度報告書の研究開発支援課の受付期日は平成30年3月29日(木)とします。
 (注3) 提出のあった様式7号は、一部マスキングのうえPDF化してそのままホームページに公開します。
 (注4) 提出されない場合は科研費学内奨励金規程第17条違反として第19条に基づき奨励金を返還いただきます。